

小学生の金銭感覚・消費行動と親の養育態度

○表 真美 宮崎玲伊子 (京都女子大)

目的 小学校の家庭科では、第6学年において買い物の仕方、こづかい帳の付け方等の消費者教育を行っているが、子どもの金銭感覚は、それ以前の段階から親の養育態度により影響を受けているものと考えられる。近年の子どもをとりまく物質的・金銭的環境は、年々高額化する傾向にあり、現在の子どもの金銭に対する意識や行動の現状を把握することは重要である。従って本報告では、小学生の金銭感覚・消費行動の現状および親の養育態度との関連を明らかにすることを目的とする。

方法 1997年6月および9月に京都市内の公立小学校の児童103名と私立小学校の児童117名を対象とし(いずれも4、5、6年生)、自己作成の質問紙調査を集合法により行った。調査結果は、コンピューターを用いて分析を行った。

結果 得られた知見は、以下の通りに要約できる。

- 1) 1ヶ月のこづかいの額は平均4349円であり、公立と私立の小学校で差が見られた。
- 2) こづかいの額が高い者は、自分のお金を使って必要なものを購入する割合が高い。
- 3) 自分専用の腕時計を持つ者は9割、カメラやCDラジカセを持つ者も約半数いた。
- 4) 物質的に豊かになるほど欲しいものがあるとすぐに買ってしまいう傾向が強くなる。
- 5) 子どもの金銭感覚・消費行動は親の養育態度の影響を強く受けている。